



翁島小学校だより

第20号 H30. 2. 7発行 文責：校長 星 善樹

豆まき

をしました。

1月30日(火)、1, 3年生は、野口記念館に出かけ、博士の生家において豆まきを行いました。はじめに、1月11日に行った団子差しの後片付けを行いました。その後、公益財団法人野口英世記念会理事長様とともに、豆まきを行いました。鬼に扮した鬼多見浩様や浅井先生に向かって元気いっぱい豆をまきました。そして、お土産までいただき帰校いたしました。団子差しや豆まきなど、伝統行事を体験させていただいた野口記念会様に心より感謝いたします。



豆まきの後は、理事長様と一緒に記念撮影



鬼多見様扮する青鬼に豆をまく子ども達

平成30年2月1日(木) 福島民報より

怖い鬼 豆投げ退治 翁島小児童

猪苗代町の翁島小の
一、三年生約二十人は
一月三十日、町内の野
口英世記念館にある野
口英世博士の生家で豆
まきを行った。
同館の恒例行事で野
口博士の母校の児童を
招いた。
子どもたちは八子弥
寿男理事長とともに生
家の神棚に豆を供え
た。鬼に扮(ふん)し
た職員らに力いっぱい
豆を投げ、一年間の幸
せを願っていた。



野口博士の生家で豆まきをする児童

福は内!
鬼は外!
福は内!
鬼は外!

◎ 校内でも豆まき

校内の鬼も退治しなければならないということで、学級毎にも豆まきを行いました。自分が追い出した鬼を紙に書き、それに向かって豆をまくなど工夫して豆まきを行いました。これで今年一年、みんな仲良く健康に生活できることでしょう。



教室内で元気に豆をまく2年生

◎校内スキー教室を行いました。

1月24日(水)、校内スキー教室を実施しました。朝からかなりの雪が降っており、予定通りの日程で実施することは難しいかと思いましたが、その後、天候はさほどひどくならず、日差しが見える時間もあり、予定通りの日程で実施することができました。本年度は、猪苗代スキー学校より10名のインストラクターをお願いし、子ども達を10班に分けて(1,2年生で4班、3,4年生で3班、5,6年生で3班の計10班)それぞれの班をインストラクターの皆さんに指導していただきました。そして、保護者の方や教職員がサブインストラクターとして各班につきましました。こうした手厚い指導体制により子ども達一人一人にきめ細かな指導ができました。そのほか、レストハウスでは、子ども達の活動のサポーターとして、たくさんの保護者の皆さんにご協力いただきました。心より感謝いたします。スキー教室の閉会式では、「楽しかった。」「上手に滑れるようになった。」という子ども達の声をたくさん聴くことができ、本当に嬉しく思いました。尚、インストラクターの方々の経費については、その一部を、PTAの資源回収の収益金から支出させていただきました。次年度もこのような形でスキー教室を実施していきたいと考えております。そのために、次年度の資源回収につきましても格段のご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。



◎ 1月24日～1月30日は、学校給食週間でした。

あまり、聞き慣れないかもしれませんが、1月24日～1月30日は、「学校給食週間」でした。文部科学省のホームページには、以下の様に記載されています。

学校給食は、明治22年に初めて実施されて以来、各地に広がっていきながら、戦争のために中断された。戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に、学校給食実施の必要性が叫ばれ、昭和21年6月に給食用物資寄贈の申出があったことも踏まえ、昭和22年1月から学校給食を再開することとした。同年12月24日に、まず試験的に、三都県(東京、神奈川、千葉)で、児童約25万人に対して、学校給食を実施することとなり、同日、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われた。それ以来、この日(12月24日)を学校給食感謝の日と定めていたが、昭和25年に、学校給食による教育効果を促進する機運を高める観点等から、新たに冬季休業と重ならない1月24日から1月30日までの1週間を「学校給食週間」とした。

子供たちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態について懸念される点が多く見られる今日、学校給食は子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしている。

(文部科学省HPよりの抜粋)